

## 業務実績報告書

提出日      2020 年   1 月 22 日

1. 職名・氏名 教授 山路直人

2. 学位 学位 博士、専門分野 経営学、授与機関 神戸大学、授与年月 2013 年

### 3. 教育活動

<b>(1)講義・演習・実験・実習</b>	
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 経営戦略論Ⅰ (2単位 毎年開講) 2年生	
②内容・ねらい 経営戦略の全体像と基礎概念を理解すること、戦略と組織との関係を理解することをねらいとしている。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 できるだけ事例を取り入れながら説明することを心掛けている。理解を深めてもらうため、自分で企業の戦略についてのレポートも数多く提出してもらっている。理解度を確認するため、できるだけ中間試験を行うことにしている。まとめのプリントも配布している。	
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 経営戦略論Ⅱ (2単位 毎年開講) 2年生	
②内容・ねらい Ⅰで基礎概念を理解していることを前提にⅡでは、特定の企業や産業の成長プロセスに焦点を当てる。戦略について広く深く理解することが狙いである。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各自に基本的な戦略、財務データ、歴史などを調べてもらっている。これらはレポートとして提出してもらっている。 2011年度からは、パワーポイントを中心に授業を進めている。 毎年ビジョナリーカンパニーの1社の成長プロセスに焦点を合わせ、どのような問題に直面しどのように乗り越えてきたのか、現在どのような問題をどのように乗り越えようとしているのか、について学習している。今年度は米3Mを取り上げ、イノベーション戦略を中心に進めた。	
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 経営学総論Ⅱ (2単位 毎年開講) 2年生	
②内容・ねらい 経営学の発展の経緯を、経営学における7つのブレークスルーを中心に振り返る。今日の経営学の全体像と特徴を理解してもらうことを狙いとしている。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 経営学総論Ⅰと関連させながら説明することを心掛けている。2011年度からは、パワーポイントを中心に授業を進めている。 2019年度も、履修登録者、出席者が多く、出席をとることは難しいため、中間試験は行わなかった。しかし、模擬試験を1回行った。	
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 外書講読Ⅰ (2単位 毎年開講) 2年生	
②内容・ねらい 経営学の発展に大きく貢献してきた人の考えを英語で理解する。経営学の基本用語を理解する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	

今年度は、英語に対してネガティブな学生がいなかったため、英文を読むときの基礎的な点を強調することに注力できた。また、英語に対する関心をさらに高めるため、全員が学内で実施されている TOEIC を 2 回受験した。

演習形式に慣れてもらうために、各自の自主性を重視している。学生からの提案は、できるだけサポートしている。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
演習Ⅰ (2 単位 毎年開講) 3 年生

②内容・ねらい

演習ⅠとⅡを通じて、卒論を完成させることを前提としている。演習Ⅰでは、まず2年間関心を持つ続けられるテーマを設定し、そのテーマに関連のある資料を100以上収集し、整理分析していく。選んだテーマ、問題に対する自分なりの答えを、議論を通して練り上げていく。演習Ⅰのねらいは、選んだテーマに関して広く深く理解することに置いている。

2012年度からは、視野を広げること、視点をずらすことを意識的に強調することにした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

毎年12月か1月に、3年生と4年生が合同で卒論の発表大会を1日かけて行ってきた。4年生との交流が深まり、プレゼンテーションの訓練にもなると考えている。今後も継続したいと考えているが、2014年度以降は、就活の長期化などで個別の卒論指導に力を入れる必要性が高まったため実施していない。

できる限り4年生や卒業生から就職の話聞けるような機会をつくっている。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
演習Ⅱ (2 単位 毎年開講) 4 年生

②内容・ねらい

演習ⅠとⅡを通して、卒論を完成させることを前提としている。演習Ⅱでは、選んだテーマに関して広く深く理解してきたことを前提に、テーマ・問題に対して自分なりの答えを説得力ある形で導き出すことに比重を移す。演習Ⅱのねらいは、いかに説得力を高めるのかについて深く考えることと論理的な思考のトレーニングにある。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

毎年12月か1月に、3年生と4年生が合同で卒論の発表大会を1日かけて行ってきた。3年生との交流が深まること、プレゼンテーションの訓練となると考えている。今後も継続したいと考えているが、2014年度以降は、就活の長期化などで個別の卒論指導に力を入れる必要性が高まったため実施していない。

2014年度は、就活が長引く中で卒論の個別指導を行う必要があり、ゼミは年間約75回(平均90分以上)以上実施した。2015年度の後期は12月までに、個別指導で計30回ほど実施している。2016年度は規定回数に加え、数回の個別指導を行った。

ゼミ旅行は2005年度から毎年実施している。

①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等  
大学院・経営戦略論 (4 単位 隔年開講)

②内容・ねらい

2018年度は、バーニー著の『企業戦略論 下』を輪読した。戦略論の中でも全社戦略を対象に、範囲の経済・シナジーについて理解を深めることを目指した。

③講義上の工夫

過半を留学生が占めるため、小さなことにはこだわらず、多角化企業における範囲の経済・シナジーの理解に重点を置いた。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名 (単位数) 開講学校名

②内容・ねらい

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

④本学における業務との関連性
(3)その他の教育活動

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文
②著書 『100年成長企業のマネジメント』（共著）2017年12月刊
③学会報告等 「東レ繊維事業の再活性化について」日本繊維製品消費科学会（2017年6月） 「大手16社の動向から見た繊維企業の成長戦略」富山県繊維技術協議会・特別講演（2017年7月） 「続・戦後の繊維産業の変化 上場企業の経時的分析から」日本繊維製品消費科学会（2018年） 「川上企業の川下事業」日本繊維製品消費科学会（2019年） 「企業革新（成長）のマネジメントについて」六甲ビジネスコンファレンス（2019年11月）
④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 日本繊維製品消費科学会（2019年）1セッション（2報告）の司会
学会での役職など 日本繊維製品消費科学会北陸支部・常任幹事（2015年度～）
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績

#### 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会
②国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

⑥その他 「講座・企業家学」にて「東洋紡」をテーマに講義 大阪商工会議所・大阪企業家ミュージアム主催（2018年11月）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
学部・予算委員会（2015年度～2016年度） キャリアセンター運営委員会（2016年度） キャリアセンター協議会（2017年度～）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など